

■北海道史上最大の危機

今オミクロン株で北海道でも毎日十数人の方が亡くなっています。この完全終息のために北海道の社会経済も飲食店も観光も大変な犠牲を払っています。一方でウクライナではロシアが侵攻しこの戦争で多くの市民、軍人が亡くなっています。3月11日には1万6千人が亡くなった東日本大震災から11年目になります。さて昨年12月24日に発表された日本海溝千島海溝大地震による津波被害のシミュレーションは13万7千人の死者を想定しています。東日本大震災の10倍の人たちが真夜中の真冬の津波に飲まれ溺れ死に、凍え死んで行きます。町民の半数以上が逃げ遅れ30メートルの波に襲われ、避難先もなく、移住先もなく、復興の目処も立ちません。マグニチュード9の地震では確実にブラックアウトが起き、暴風雪の中では内陸部でも多くの犠牲者が生まれます。沿岸部の港湾も工業地帯も甚大な被害を受けて産業が麻痺する中で北海道経済はどこまでレジリエンスできるのでしようか。

■危機管理責任者のやるべき事

史上最悪の事態を予言されてから3ヶ月が経ちました。いつまでも安心してはいられません。あきらめるのではなく対策を

考えましょう。まだ数年、数十年あるかもしれません。それとも来月か来週かもしれません。私の子供と幼い孫たちも根室に住んでいます。家族や親や友人の命を救うためには何をすれば良いか真剣に考えなくては。

■救命胴衣を備える

まだ誰も実行していないようですが、全住民分の救命胴衣を備えましょう。ヘルメットをかぶり救命胴衣を着て避難すれば命が助かる可能性はあります。世界中の航空機が必ず救命胴衣の着装をアテンションするのは海の上で墜落しても救助を待つためです。飛行機が落ちて死亡する確率は0.0009%で8200年間毎日飛行機に乗って遭遇する確率だそうですね。千島海溝地震は1000年に1度かもしれない。しかしここに生きる人たちには必ずいつかやってくる史上最悪の災害です。新型コロナウイルスに感染しないよう政府は国民にマスクを配りました。コロナでは全員は死にません。南海トラフ地震、日本海溝千島海溝地震で亡くなるかもしれないハザードマップエリアの国民に生き残る希望のために救命胴衣を配ってください。

めに救命胴衣を配ってください。

■筆者紹介

株式会社あかりみらい代表取締役 越智文雄
1980年北海道大学法学部卒業後北海道電力入社。電気事業連合会企画部副部長、北海道洞爺湖サミット道民会議事務局次長、北海道経済同友会などを歴任。専門分野は危機管理、エネルギー、コロナ対策。